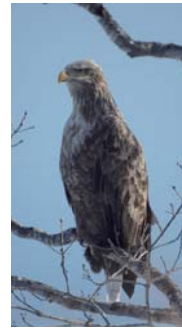
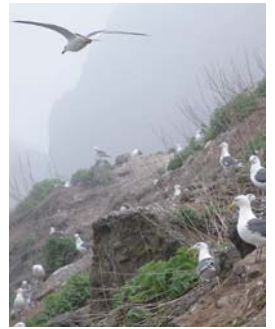


厚岸水鳥観察館だより  
べかんべうし  
**別寒辺牛**

●問い合わせ／水鳥観察館 ☎52-5988



オジロワシ



オオセグロカモメ

**オジロワシの増加とカモメの減少**

**日** 本でも大型鳥類の上位に入るオジロワシはユーラシア大陸に広く分布しており、それらの一部は日本に冬鳥として渡ってきます。また北海道では留鳥として繁殖をしているものもあり、水鳥観察館が開館した平成7年頃で3つがい程度いました。それが現在では、十数つがい以上が確認されています。

**オ** ジロワシは国の天然記念物で絶滅危惧種でもあり、繁殖数が増えるのは決して悪いことではありません。しかし諸手を挙げて喜んでばかりではありません。

実はこのオジロワシは、小型カモ類から大型カモメのオオセグロカモメまで捕食します。カモ類は繁殖期ではない冬季の捕食なので大きな影響はありませんが、町内でのカモメの仲間には、その生息数に大きく影響しているようです。皆さんが『ゴメ』と呼んでいるカモメの仲間には、オオセグロカモメ、セグロカモメ、ウミネコ、ミツユビカモメなど複数種のカモメがいます。厚岸町の『町の鳥』はオオセグロカモメで最も多いカモメですが、町内の主なオオセグロカモメの繁殖地は大黒島でした。1990年代前半には8,000巣以上、1996年には約2,000巣、そし

て2012年には88巣と激減しています。

**さ** てオオセグロカモメ減少の一番の原因はオジロワシによる捕食が考えられます。オジロワシは、ヒナを襲うだけではなく成鳥、大人のオオセグロカモメを空中戦で捕食する能力があるのです。

大黒島で大繁殖していた時代のオオセグロカモメですら、1羽のオジロワシがやってくると一斉に飛び上がり大パニックになっていたのですが、今は繁殖して増えたオジロワシの幼鳥も加わり、多い時には数十羽が大黒島にいることもあります。オオセグロカモメにとってこの事態は深刻です。

**そ** の結果何が起きているか... 町中の大きな建築物の屋根に営巣場所を求めてきたのです。これは、<sup>けんぼつまどう</sup>嶮暮帰島(浜中町)、ユルリ・モユルリ島(根室市)などでも同様で、建物の屋根での営巣数の増加は道東海岸線一円で起こっています。

今後オジロワシとカモメとの関係がどのように推移するか、まだわからないことが多くありますが、1種類の上位捕食者の増加が、他の鳥類にこれだけの影響を及ぼすという生態系、生き物のつながりを考えるきっかけになっているのです。

**オオハクチョウ飛来日当てクイズ**

厚岸湖～別寒辺牛湿原に、オオハクチョウが初飛来するのは、今年の何月何日でしょうか？

●応募方法／水鳥観察館、情報館、コンキリエなどに設置してある応募用紙で応募するか、ハガキ、ファクス、メール、水鳥観察館ホームページから予想初飛来日(○月○日)、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、性別、電話番号、職業(学校名・学年)を明記して応募してください。応募は1人1回です

●応募先／〒088-1140 厚岸町サンヌシ66番地 厚岸水鳥観察館『オオハクチョウ飛来日当てクイズ』係  
●賞／ドンピシャ賞3人＝厚岸町の自然の恵み『殻付きカキ(カキえもん)』セット

※正解者多数の場合は抽選。正解者が2人以下だった場合はニアピン賞として、最も近い日を選んだ人の中からドンピシャ賞と合わせて3人になるまで抽選(賞品はドンピシャ賞と同じ)

●締め切り／9月30日(月)(当日消印有効)

●発表／初飛来後、抽選を行い当選者に通知

●飛来の確認方法など／初飛来日は、水鳥観察館職員が観察館野外観察カメラで確認した日とします。10月1日より前に飛来した場合、賞は応募者全員の中から抽選します



**【過去10年の初飛来日】**

平成21年10月8日	平成26年10月11日
平成22年10月13日	平成27年10月7日
平成23年10月4日	平成28年9月29日
平成24年10月9日	平成29年10月9日
平成25年10月6日	平成30年10月8日